

# 花粉症 / 花粉アレルギーについての調査 (2014年3月 調査)

株式会社 日本リサーチセンター (Member of Gallup International Association)



代表取締役社長 鈴木 稲博

東京都中央区日本橋本町2-7-1 電話03-6667-3400(代) / FAX:03-6667-3470

(担当: 自主調査委員会 松川、今井、小宮山) <http://www.nrc.co.jp/>

## ■ 日本リサーチセンター(NRC)では、

全国15～79歳男女1,200人を対象に、訪問留置のオムニバス調査(NOS)を、毎月定期的の実施しております。  
本レポートは、NOSを利用した自主調査「花粉症／花粉アレルギーについて」のデータを利用したものです。

## ■ この花粉症調査は、

2003年3月に初めて実施しました。その後、2010年以降毎年3月に実施している時系列調査です。

## ■ 主な結果の紹介は以下の通りです。

### ①花粉症／花粉アレルギーを持っている人の比率は・・・

- ・花粉症／花粉アレルギーを持っている人は32.8%。
- ・花粉飛散量の多かった2013年に比べて、やや低下している。
- ・昨年よりも低下したのは、性別では女性、年代では10～30代、地域別では関東・近畿地方が目立つ。

### ②花粉症／花粉アレルギーの症状の中で多いのは・・・

- ・最も多い症状は「目のかゆみ」、次いで「水っぱな」「鼻づまり」「くしゃみ」「鼻のかゆみ」と続くが、その割合は2013年よりも低い。
- ・目、鼻両方に重い症状がある人の割合が2013年より低下し、いずれの症状もない人の割合が上昇している。

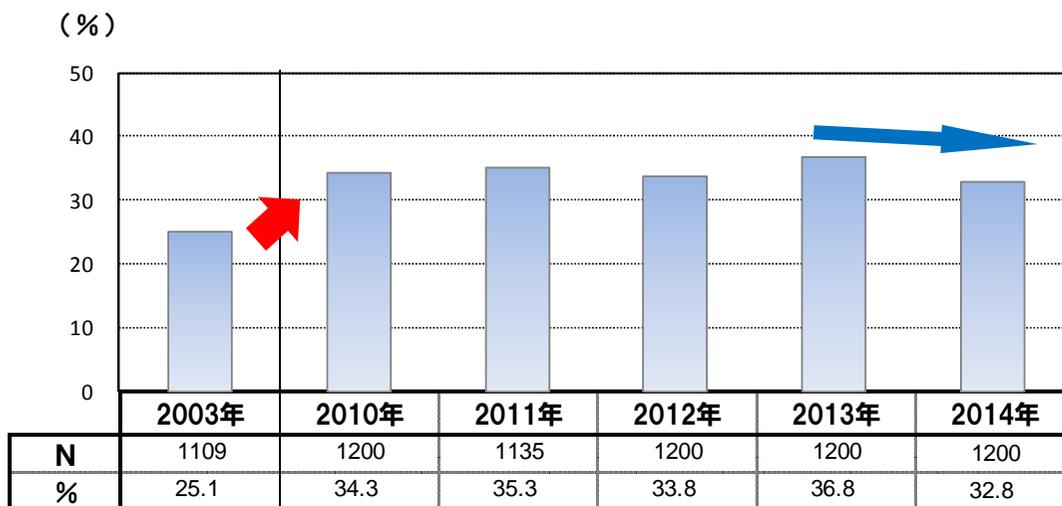
### ③花粉症／花粉アレルギー対策として多いのは・・・

- ・対策として最も多いのは「普通のマスクをすること」(55.1%)で、2013年に続き全体の半数を超える。  
次いで、「医者処方飲み薬」「市販目薬」「医者処方目薬」が多い。  
2014年は2013年よりも症状が軽いにも関わらず、「普通のマスクをすること」は2013年とほぼ変わらず、マスクが習慣化している様子。
- ・マスクを利用することについて、「まったく抵抗を感じない」と答えた人は2010年から年々増加し続けており、2014年は62.4%。

# 現在、花粉症/花粉アレルギーを持っているか

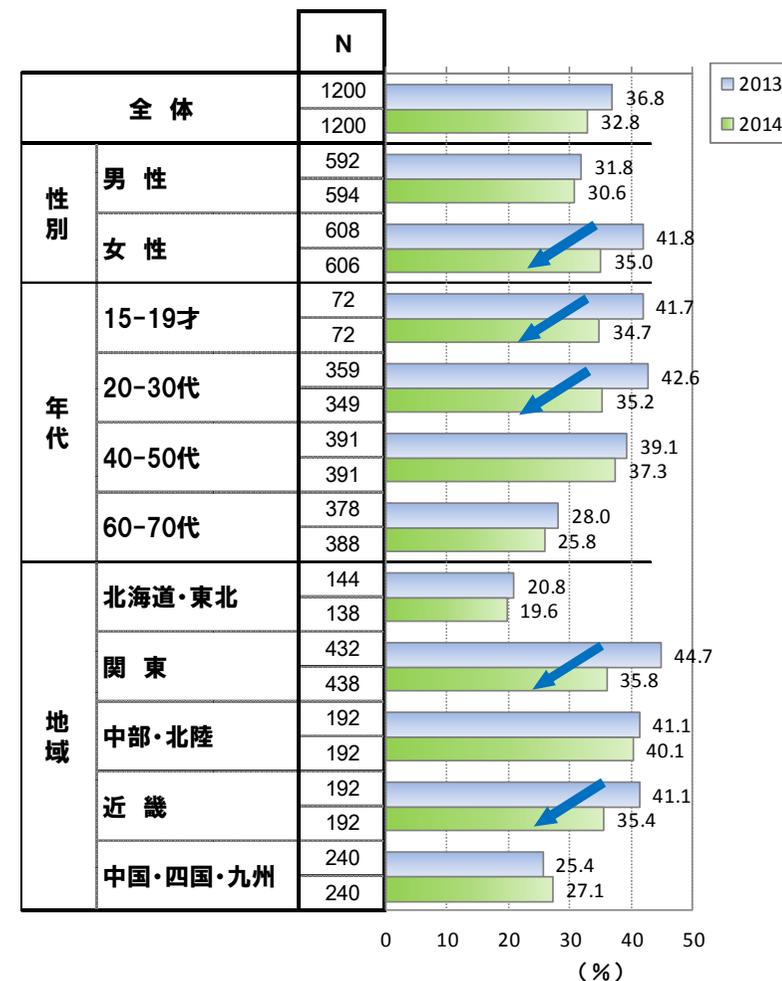
- 現在、アレルギーとして「花粉症/花粉アレルギー」を持っているかを聞いたところ、3割以上が花粉症/花粉アレルギーの症状があると回答した。
- 時系列でみると、2003年は2割半ばだったのが、2010年以降は3割超と増えている。花粉飛散量が多かったと言われている2013年と比べて、2014年は症状があると回答した人がやや低下している。
- 女性、15-19才、20-30代、関東、近畿で、2013年よりも花粉症/花粉アレルギーの症状がある割合が低下したため、2014年は40-50代、中部・北陸が相対的に高くなっている。

## ■時系列比較



【花粉症/花粉アレルギーを持っている比率】

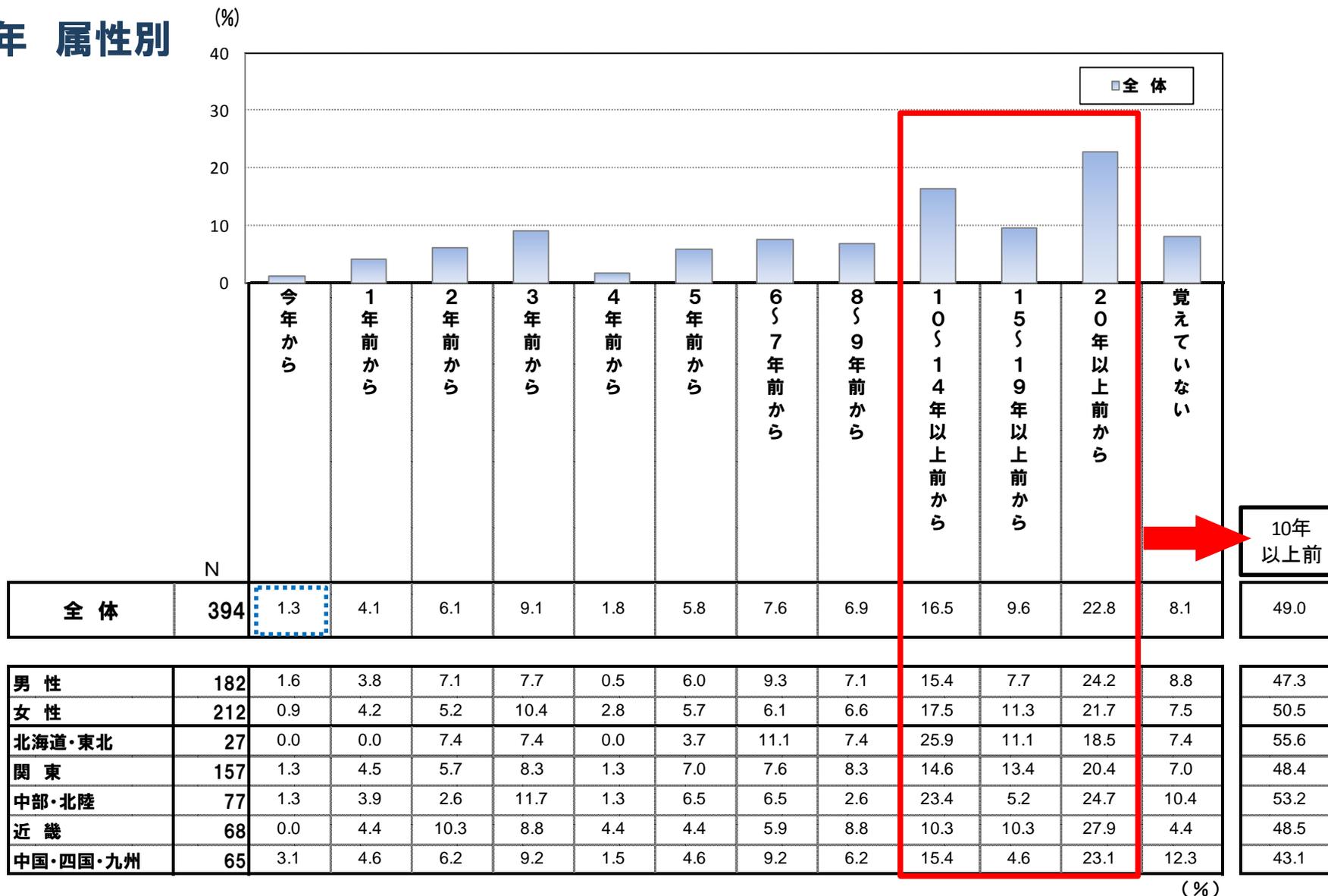
## ■属性別 2013-2014年比較



# 花粉症/花粉アレルギーになった時期

- 花粉症/花粉アレルギーの症状がある人 (N=394) に、いつから「花粉症/花粉アレルギー」になったかを聞いたところ、半数近くが10年以上前から症状があると回答した。
- 性別、地域別でも、同様の傾向である。
- 今年から症状が出始めた人は1.3%とごくわずか。

## ■2014年 属性別

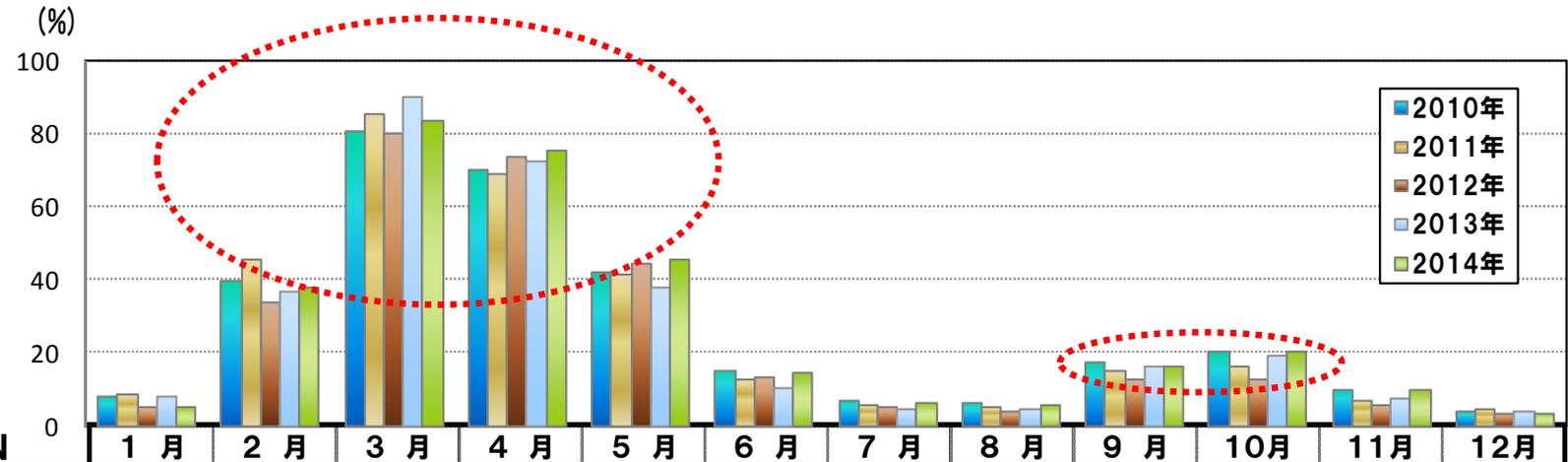


(%)

# 花粉症/花粉アレルギーの症状がある月

- 花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、症状がある月を複数回答で聞いたところ、例年、症状のピークは「3月」で8～9割の人が症状を感じている。次いで「4月」が7割前後と多い。
- どの年においても、「2月」～「5月」は症状がある人が3割を超えており、「2月」～「5月」が主な花粉症のシーズンといえる。
- また、「7月」「8月」には5%程度と低くなるが、「9月」「10月」にはまた症状を感じる人が1～2割程度まで増加する。
- 2013年と比較すると、2014年は「3月」に症状がある割合が低下している。

## ■時系列比較



N		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2010年	412	8.5	39.6	80.8	70.1	42.2	15.0	7.0	6.3	17.7	20.6	10.0	3.9
2011年	401	8.7	45.9	85.5	69.3	41.6	13.0	5.7	5.5	15.2	16.7	7.2	4.7
2012年	405	5.4	33.8	80.2	73.6	44.4	13.3	5.4	4.4	12.8	12.8	6.2	3.7
2013年	442	8.4	37.1	90.0	72.6	37.8	10.6	4.5	5.0	16.3	19.2	7.5	4.1
2014年	394	5.1	38.1	83.5	75.6	45.4	15.0	6.3	5.8	16.2	20.3	9.9	3.3

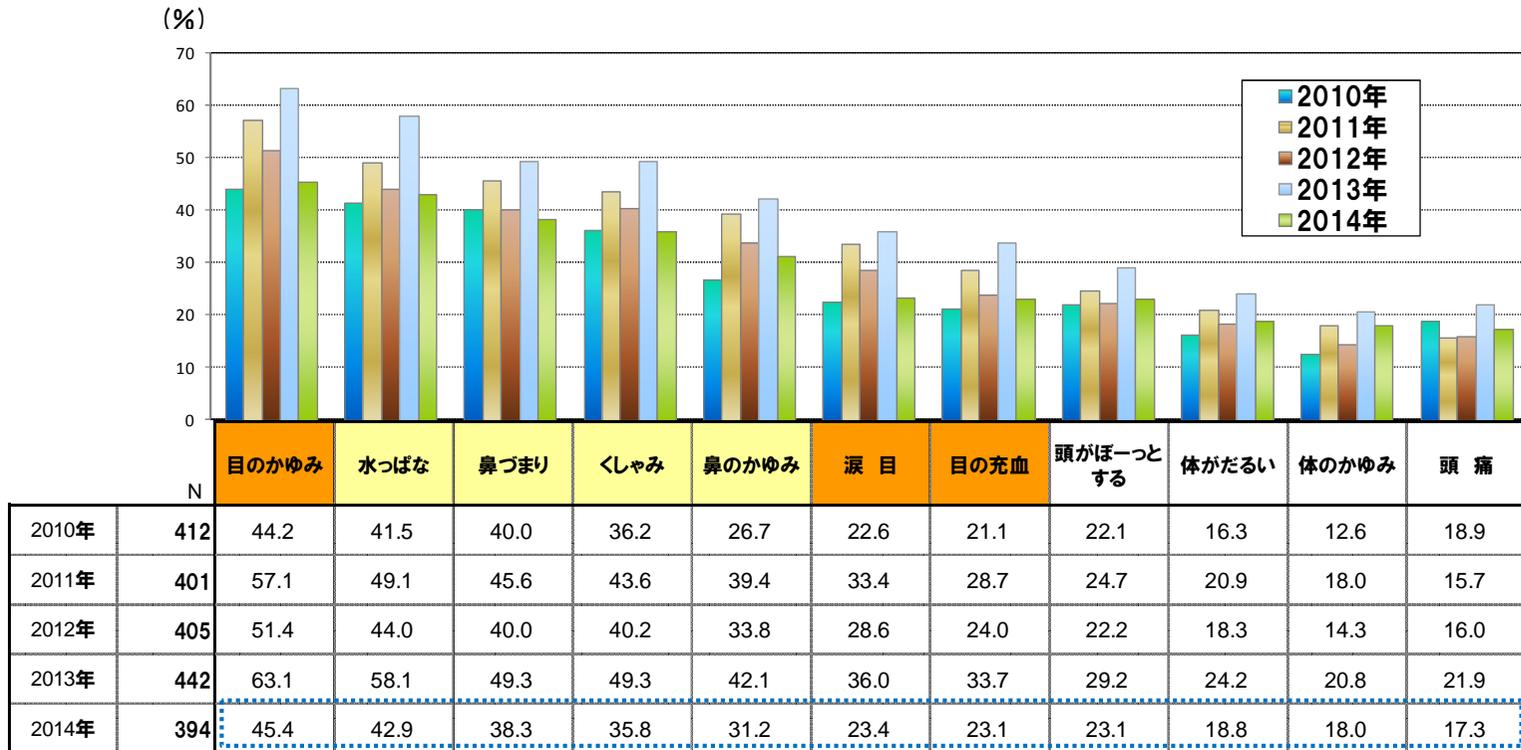
(%)

# 花粉症/花粉アレルギーの症状の程度

- 花粉症/花粉アレルギーの症状がある人に、調査実施期間(3月上旬)時点で、最近1~2週間の症状の程度を項目ごとに聞いた。
- 図表内の数値には「1 症状なし」「2 軽い」「3 やや重い」「4 重い」「5 非常に重い」のうち3+4+5の計を示している。
- 症状別で見ると、「目のかゆみ」が一番多く、次いで「水っぱな」、「鼻づまり」、「くしゃみ」、「鼻のかゆみ」の症状が多く出ているが、花粉の飛散量が多かった2013年と比較すると、いずれの症状も大幅に低下している。
- 性別で見ると、男性は「水っぱな」「鼻づまり」の症状が女性よりも多く、女性では「体のかゆみ」「頭痛」が男性よりも多く、性別によって症状に差が見られる。

## 時系列比較

「1 症状なし」「2 軽い」「3 やや重い」「4 重い」「5 非常に重い」のうち3+4+5の「重い計」【花粉症/花粉アレルギーのある人】

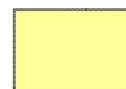


2014年	男性	182	47.3	46.7	41.2	35.7	29.7	23.6	24.2	23.6	17.0	12.6	14.3
	女性	212	43.9	39.6	35.8	35.8	32.5	23.1	22.2	22.6	20.3	22.6	19.8

(%)



目に関する症状



鼻に関する症状

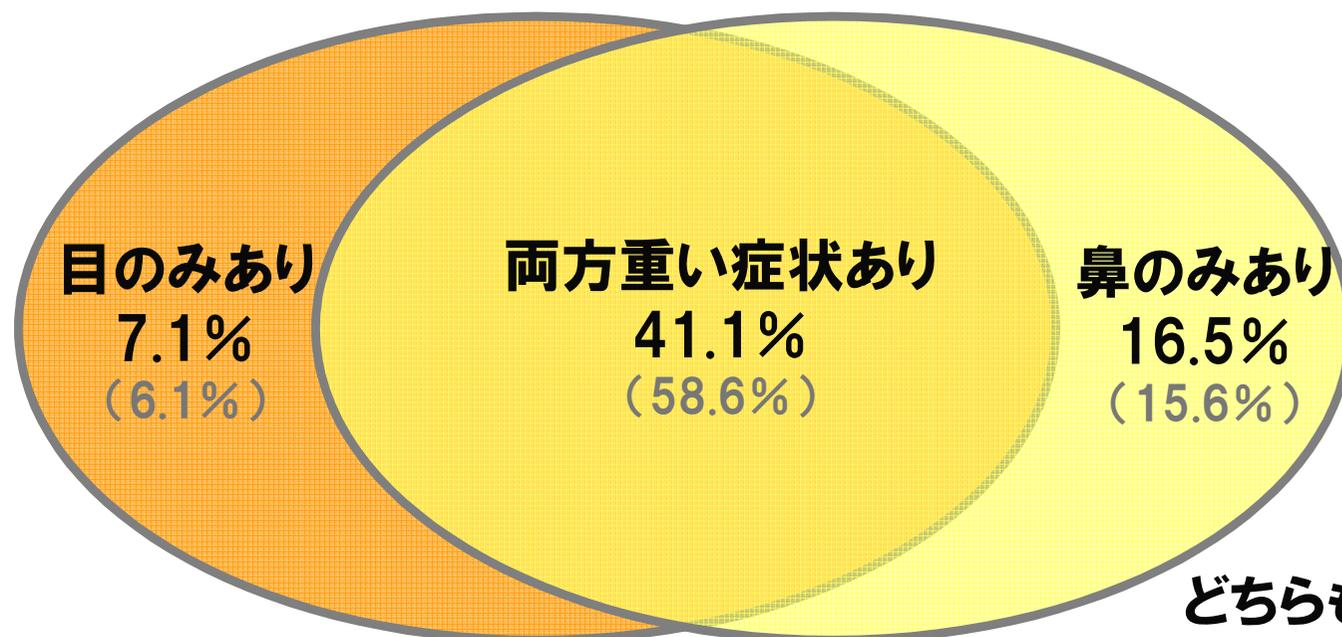
# 目と鼻の重い症状比率

- 目に重い症状がある人(「目のかゆみ」「涙目」「目の充血」のいずれかの項目で「3やや重い」以上の症状がある人)と、鼻に重い症状がある人(「くしゃみ」「水っぱな」「鼻づまり」「鼻のかゆみ」のいずれかの項目で「3やや重い」以上の症状がある人)について、注目してみた。
- 目に重い症状がある人は全体の48.2%、鼻に重い症状がある人は全体の57.6%であり、目と鼻の両方に重い症状を持っている人は41.1%だった。
- 目、鼻の両方の症状に悩まされている割合は2013年の58.6%から2014年は41.1%に低下し、「どちらも重い症状なし」の割合が35.3%に上昇している。

## 花粉症/花粉アレルギーのある人 (2014年N=394、2013年 N=442)

目に重い症状あり=48.2%  
(64.7%)

鼻に重い症状あり=57.6%  
(74.2%)



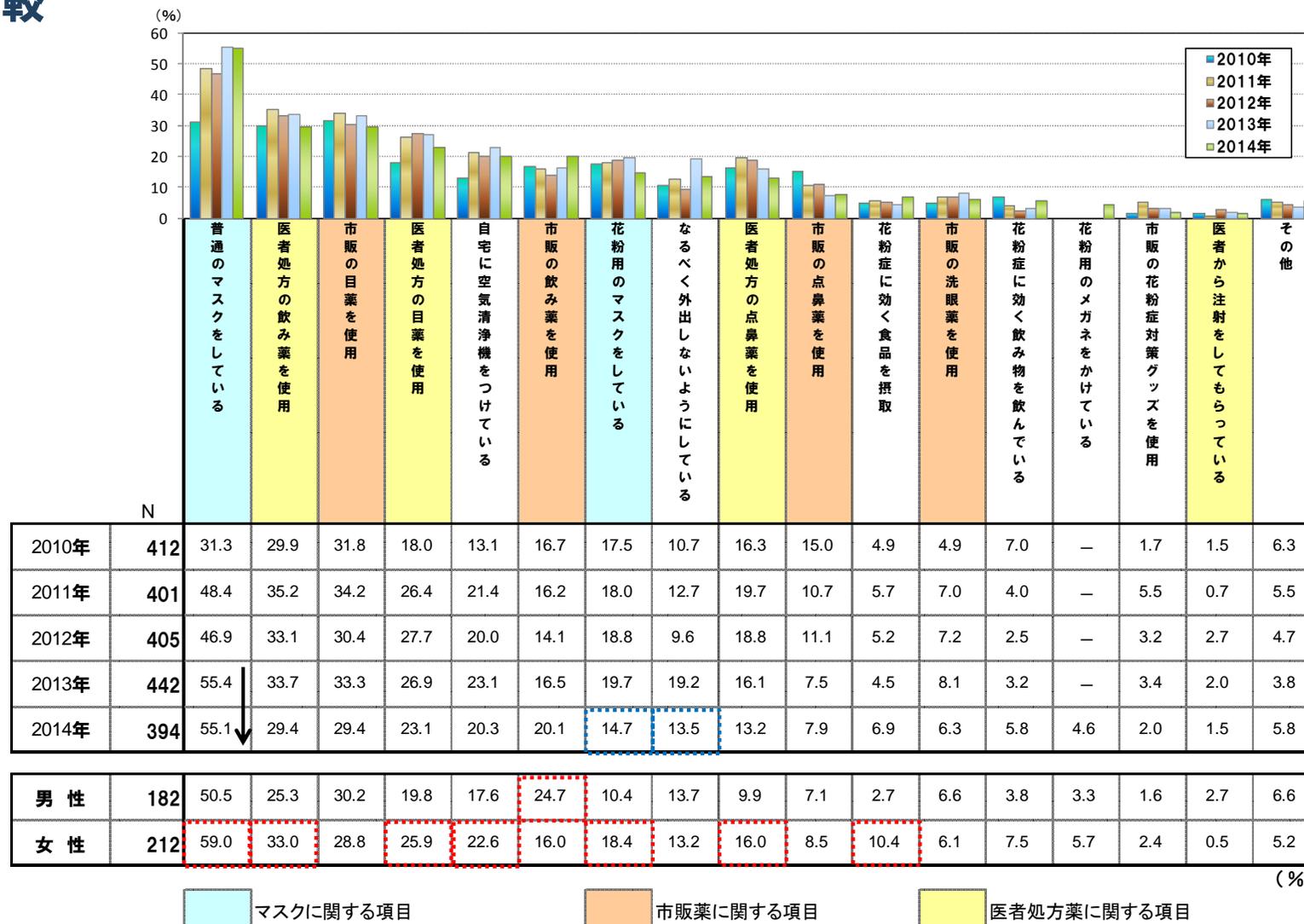
どちらも重い症状なし  
35.3%  
(19.7%)

※( )内の数字は2013年の比率

# 花粉症/花粉アレルギーに対して具体的にしている対策

- 花粉症/花粉アレルギーに対してどのような対策をとっているかを複数回答で聞いた。
- 毎年、「普通のマスク」をすることが最も多い対策となっており、2013年よりも花粉症状が軽いにもかかわらず、2014年も55.1%と半数を超える。
- その一方、「花粉用のマスク」「なるべく外出しない」は、2013年よりも低下している。
- 性別でみると、「市販の飲み薬」は男性が多く、「医者処方飲み薬」「医者処方目薬」「医者処方点鼻薬」などの医者利用は女性が多い。
- また、女性は「普通のマスク」「自宅に空気清浄機をつけている」「花粉用のマスク」「花粉症に効く食品摂取」などの項目も男性より多い。

## 時系列比較

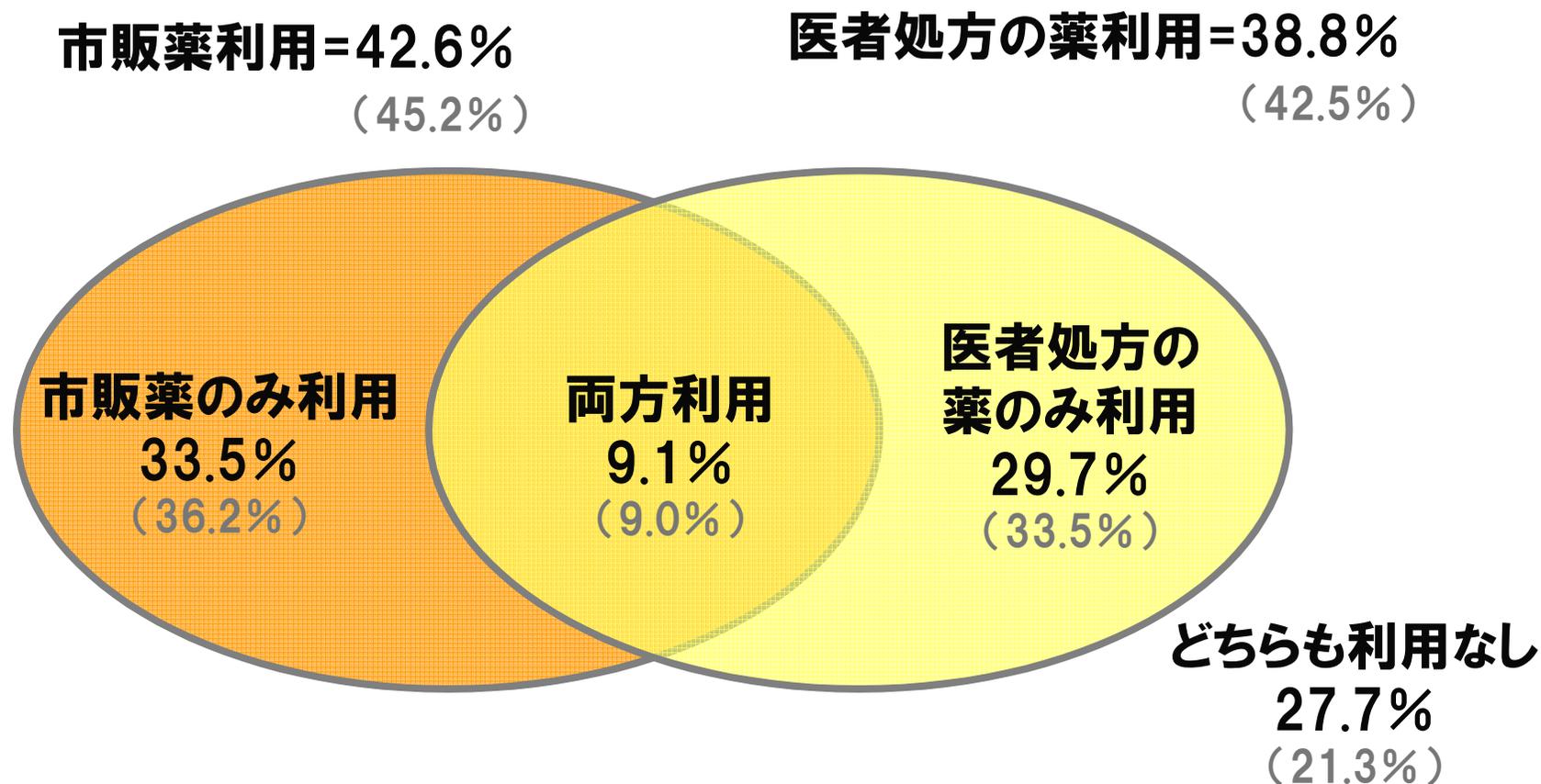


マスクに関する項目
  市販薬に関する項目
  医者処方薬に関する項目

※「花粉用のメガネをかけている」は2014年から聴取

- 市販薬と処方薬の利用に注目してみた。
- 市販の薬を利用している人(「市販の目薬」「市販の飲み薬」「市販の点鼻薬」「市販の洗眼薬」のいずれかあり)は、42.6%。
- 医者処方薬を利用している人(「医者処方目薬」「医者処方飲み薬」「医者処方点鼻薬」「医者から注射」のいずれかあり)は、38.8%。
- 両方利用している人は9.1%と少なく、市販薬派と処方薬派のいずれかに分かれている。また、いずれも利用していない人が27.7%いる。
- 2013年と比べると、いずれの薬も利用していない人の割合が増えている。

## 花粉症/花粉アレルギーのある人 (2014年N=394、2013年 N=442、2012年 N=405)

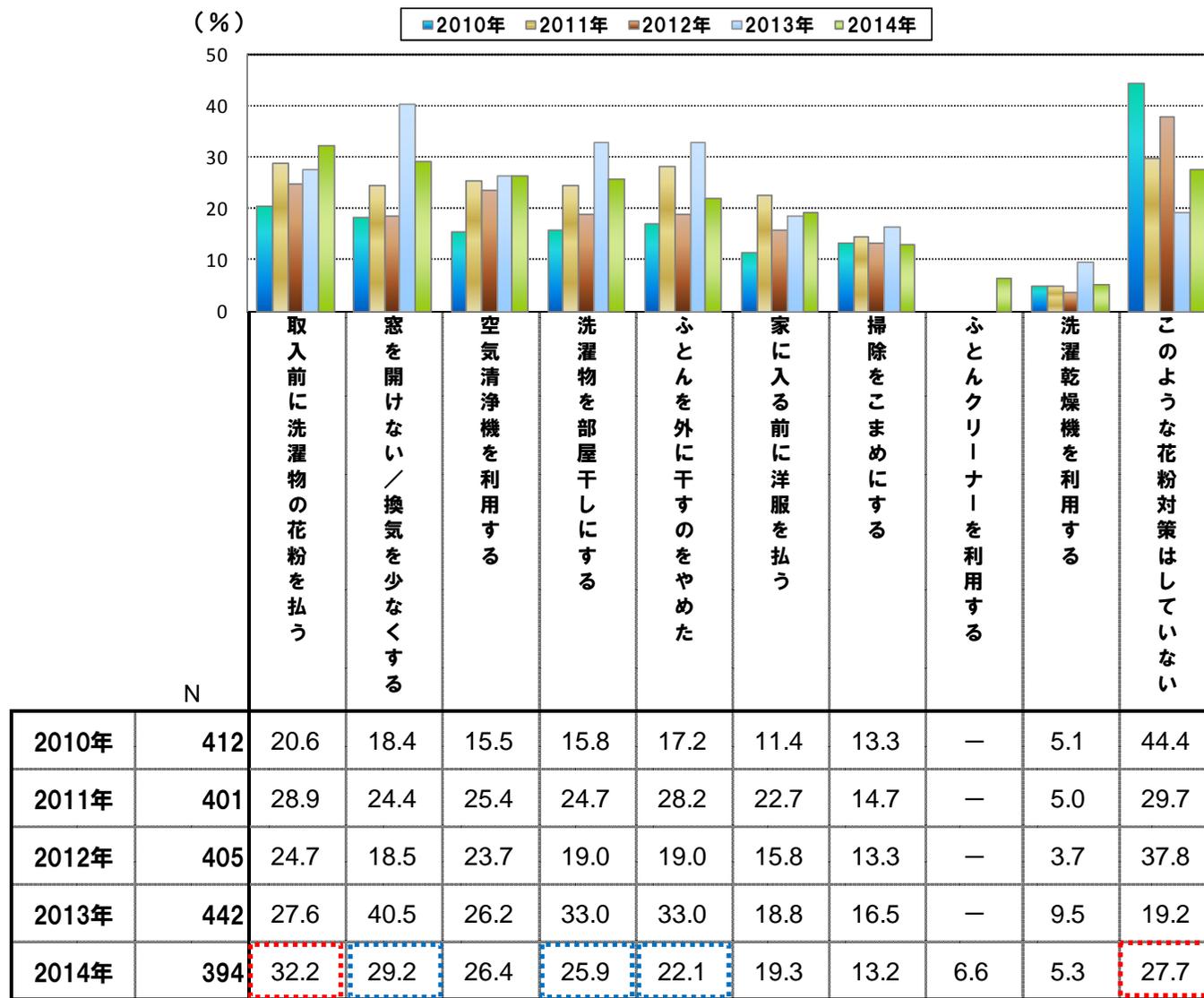


※( )内の数字は2013年の比率

# 最近3カ月間に花粉対策として行った行動

- 花粉症/花粉アレルギーを持っている人に花粉対策として行った行動を聞いた。
- 2013年に高かった「窓を開けない/換気を少なくする」「洗濯物を部屋干しにする」「ふとんを外に干すのをやめた」という外気に触れさせない対策が軒並み低下し、「取入前に洗濯物の花粉を払う」が上昇している。
- さらに、「花粉対策はしていない」の割合も2013年と比べて上昇している。

## 時系列比較



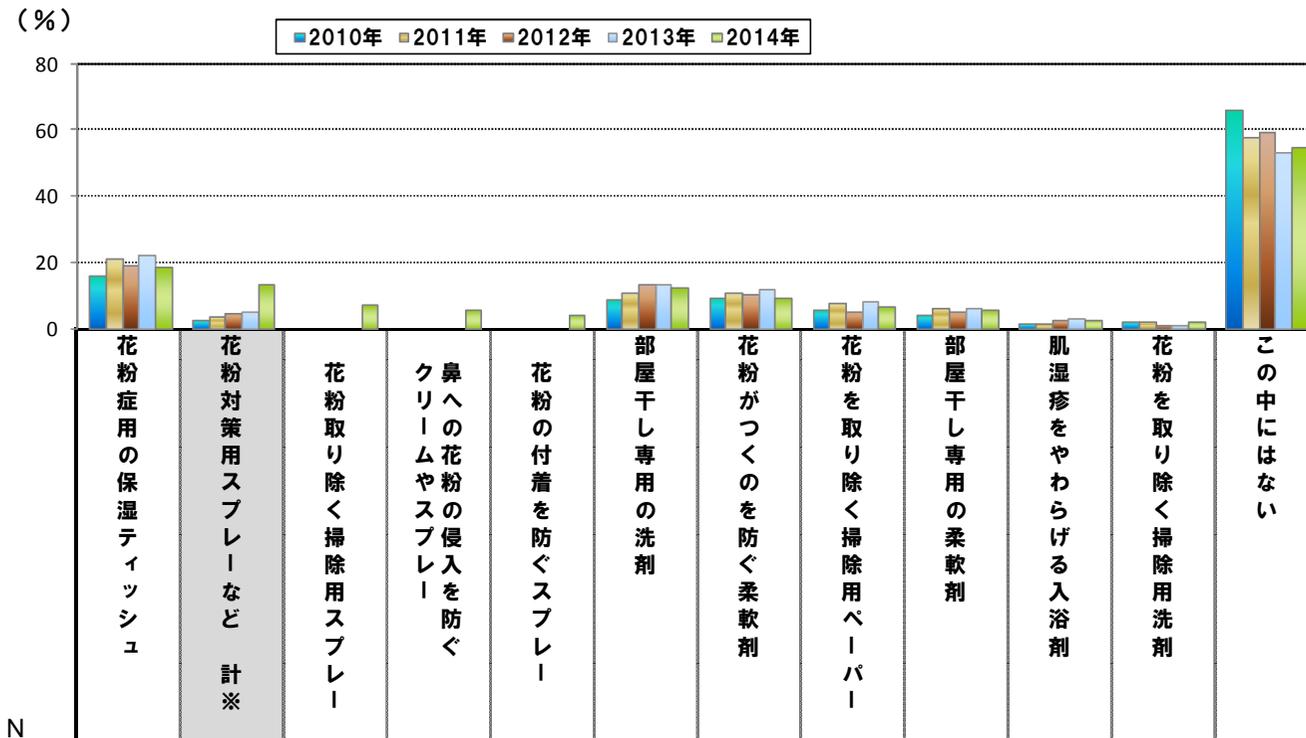
※「ふとんクリーナーを利用する」は2014年から聴取

(%)

# 花粉対策で買ったもの

- 花粉症/花粉アレルギーを持っている人に花粉対策で買ったものを聞いた。
- 例年、「保湿ティッシュ」が2割程度で最も多い。
- 2014年はスプレーに関する選択肢を分けて聴取したせいか、「花粉対策用スプレーなど 計」が13.5%と多い。  
次いで「部屋干し専用の洗剤」「花粉がつくのを防ぐ柔軟剤」が多く、1割程度みられる。
- 「この中にはない」は、2014年は54.8%と2013年と同程度。年々増加傾向にあった花粉対策商品の購入率は横ばい。

## 時系列比較

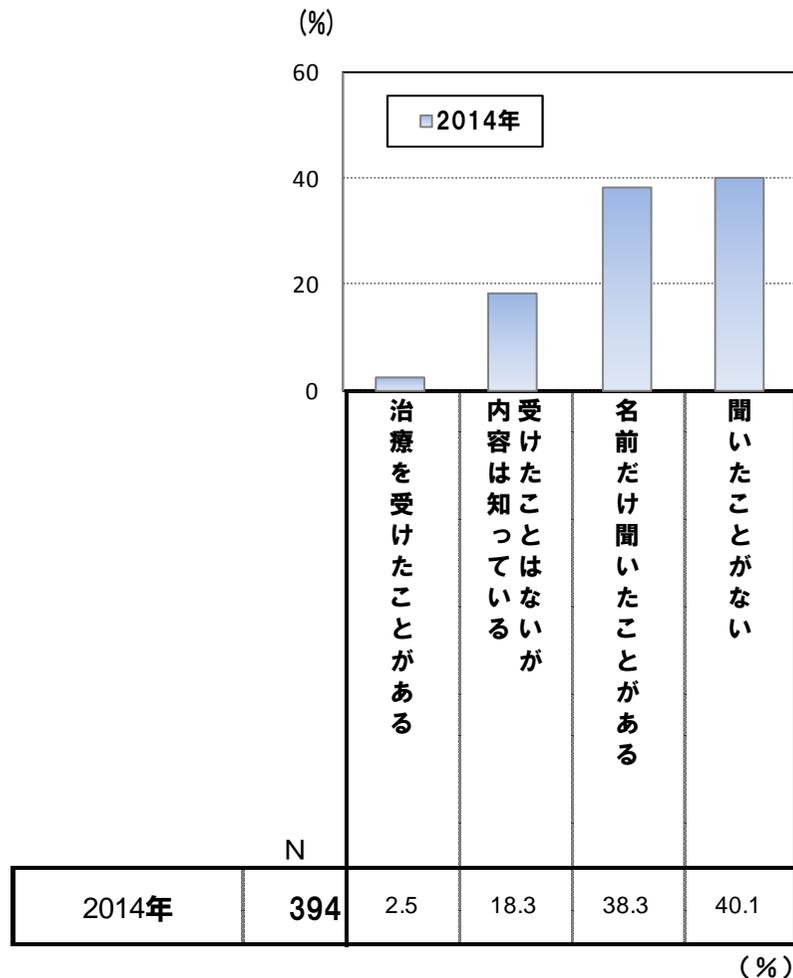


※ 2010年～2013年は「花粉対策用スプレー」として聴取。  
 2014年は「花粉取り除く掃除用スプレー」「鼻への花粉の侵入を防ぐクリームやスプレー」「花粉の付着を防ぐスプレー」を分けて聴取。  
 2014年の「花粉対策用スプレーなど 計」は上記3項目のいずれかを回答した割合。

# 花粉症のレーザー治療について

- 花粉症/花粉アレルギーのレーザー治療について聞いた。【花粉症/花粉アレルギーの症状がある人(N=394)】
- 「聞いた事がない」、「名前だけ聞いた事がある」がそれぞれ4割程度あり、内容認知度はまだ2割と低い。「治療を受けたことがある」は2.5%にとどまる。
- 地域別にみると、関東で「内容を知っている」人が23.6%と多い。

## 2014年 全体



## 2014年 属性別

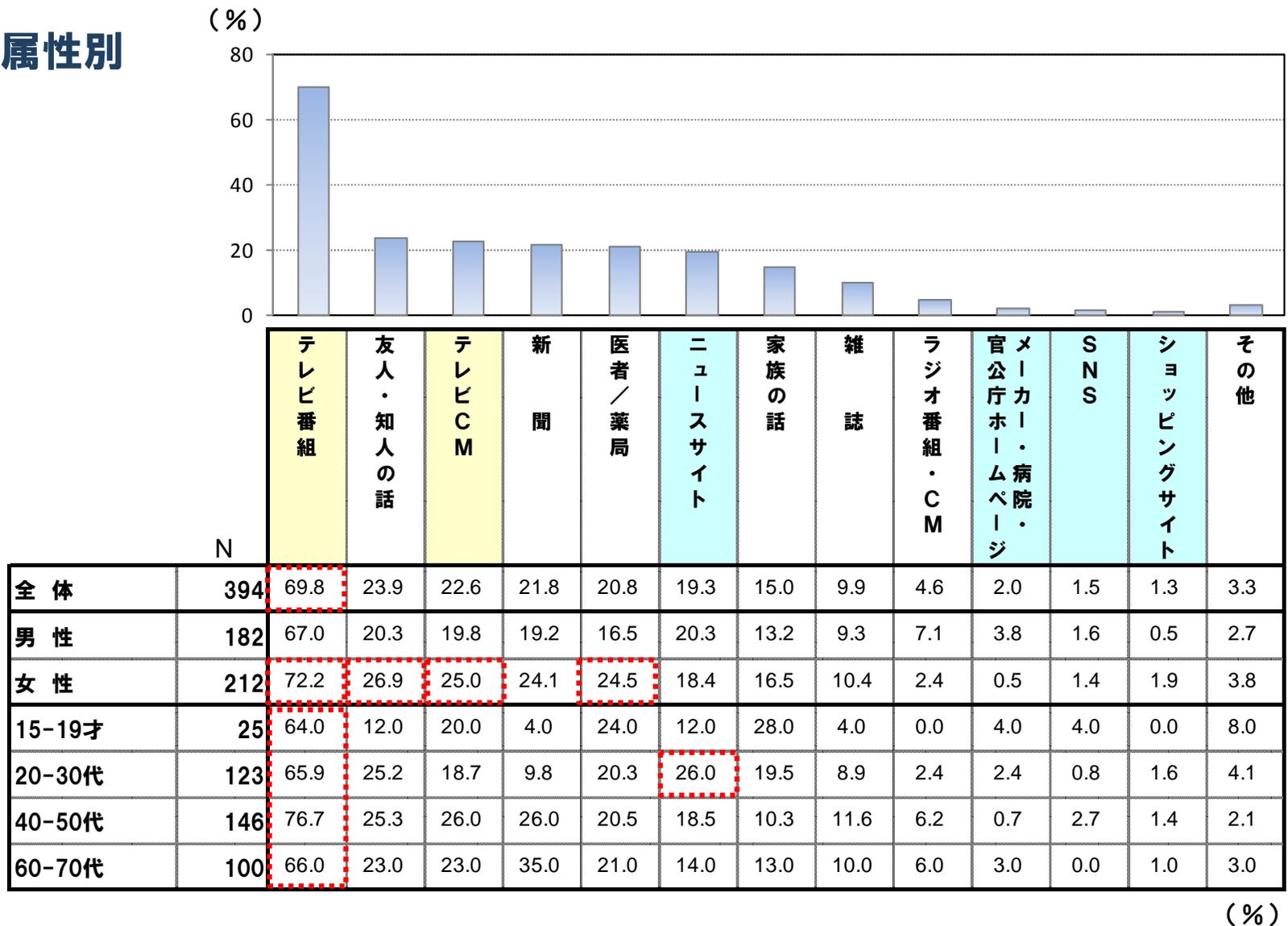
	N	治療を受けたことがある	内容を知っているが	名前だけ聞いたことがある	聞いたことがない
男性	182	1.6	17.6	37.9	42.9
女性	212	3.3	18.9	38.7	37.7
15-19才	25	0.0	16.0	32.0	52.0
20-30代	123	3.3	20.3	35.8	40.7
40-50代	146	2.7	17.8	42.5	37.0
60-70代	100	2.0	17.0	37.0	41.0
北海道・東北	27	3.7	7.4	29.6	59.3
関東	157	1.9	23.6	42.7	31.2
中部・北陸	77	0.0	15.6	41.6	41.6
近畿	68	7.4	16.2	42.6	32.4
中国・四国・九州	65	1.5	15.4	23.1	60.0

(%)

# 花粉対策の情報源

- 花粉症/花粉アレルギーを持っている人に花粉対策の情報源を聞いた。【花粉症/花粉アレルギーの症状がある人(N=394)】
- 全体では「テレビ番組」が69.8%と圧倒的に多い。その傾向は性別、年代別でも同様。
- 性別で見ると、女性は「テレビ番組」「友人・知人の話」「テレビCM」「医者/薬局」の割合が男性よりも高い。
- 年代別で見ると、20-30代で「ニュースサイト」の割合が高い。

## 2014年 属性別



テレビに関する項目

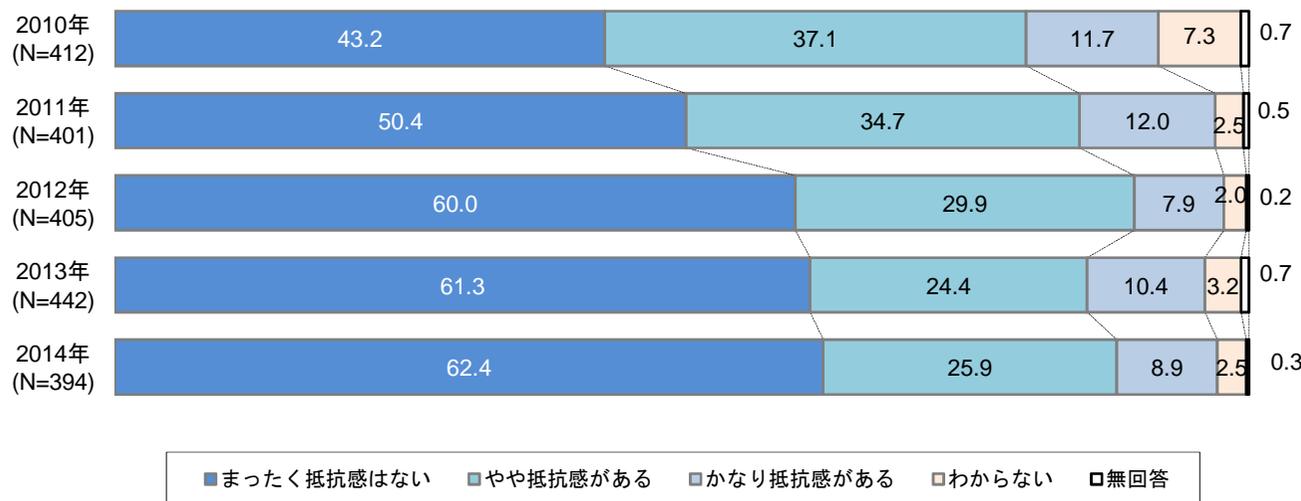


インターネットに関する項目

# マスクを付けることに抵抗を感じる程度

- 花粉症対策にマスクを付けることに抵抗を感じる程度を聞いた。
- 花粉症/花粉アレルギーの人のうち、花粉症対策にマスクを付けることに「まったく抵抗感はない」人は、2010年43.2%→2011年50.4%→2012年60.0%→2013年61.3%→2014年62.4%と年々増えている。
- 性別で見ると、男性に比べて、女性の方が「まったく抵抗感はない」人の割合が高い。
- 年代別で見ると、若い人ほど「まったく抵抗感はない」人の割合が高くなる。

## ■時系列比較：花粉症対策にマスクを付けることに抵抗を感じる程度【花粉症/花粉アレルギーのある人】



## ■2014年属性別：花粉症対策にマスクを付けることに抵抗を感じる程度【花粉症/花粉アレルギーのある人】

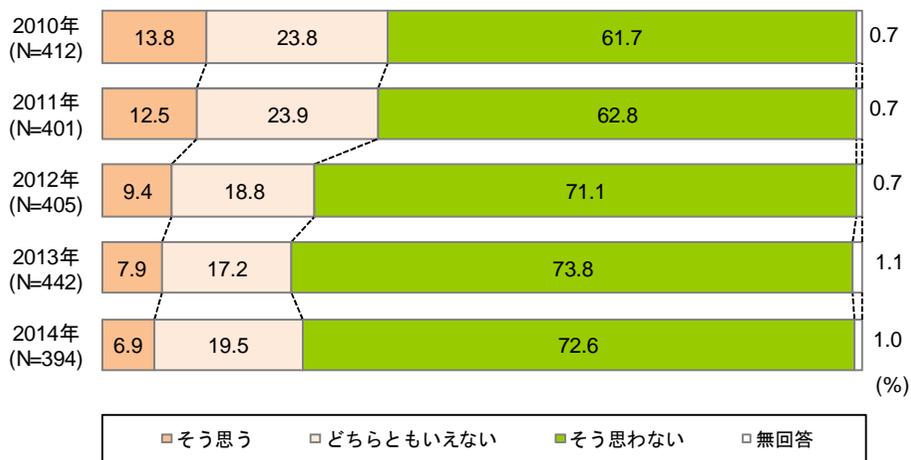
	N	まったく抵抗感はない	やや抵抗感がある	かなり抵抗感がある	わからない	無回答
全体	394	62.4	25.9	8.9	2.5	0.3
男性	182	53.3	30.2	11.5	4.9	0.0
女性	212	70.3	22.2	6.6	0.5	0.5
15-19才	25	68.0	20.0	0.0	12.0	0.0
20-30代	123	65.0	27.6	4.9	2.4	0.0
40-50代	146	63.0	26.0	10.3	0.7	0.0
60-70代	100	57.0	25.0	14.0	3.0	1.0
北海道・東北	27	70.4	18.5	7.4	3.7	0.0
関東	157	64.3	26.1	5.7	3.2	0.6
中部・北陸	77	63.6	23.4	11.7	1.3	0.0
近畿	68	54.4	30.9	11.8	2.9	0.0
中国・四国・九州	65	61.5	26.2	10.8	1.5	0.0

# マスクを付けることで感じること

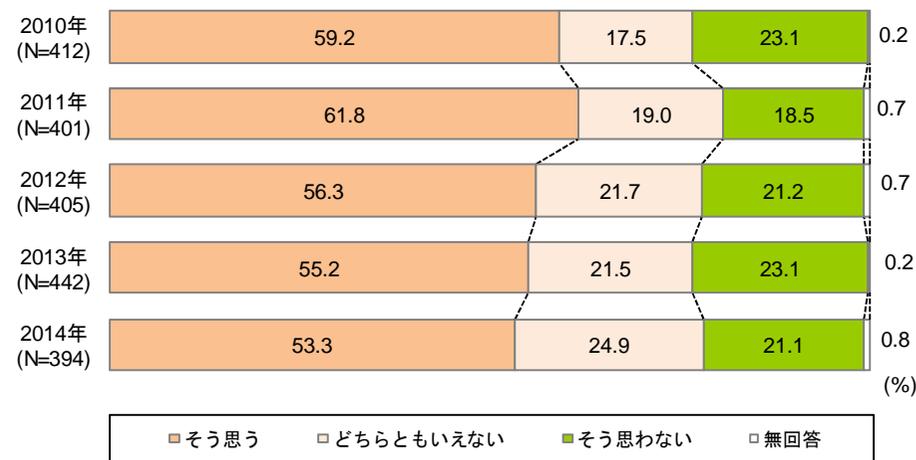
- 花粉症対策にマスクを付けることで感じることを聞いた。
- 時系列で比較をすると、「恥ずかしい・格好悪い」とは思わない人が年々増えており、2012年以降は7割を超える。また、「不潔」、「花粉症予防に効果はない」とは思わない人は年によって多少の動きがあるものの、いずれも5～8割と半数は超えている。
- 一方、「呼吸しにくい」と思っている人は減少傾向にあるが、2014年でも53.3%と半数以上いる。

## ■時系列比較：マスクをつけることに関して、感じること【花粉症/花粉アレルギーのある人】

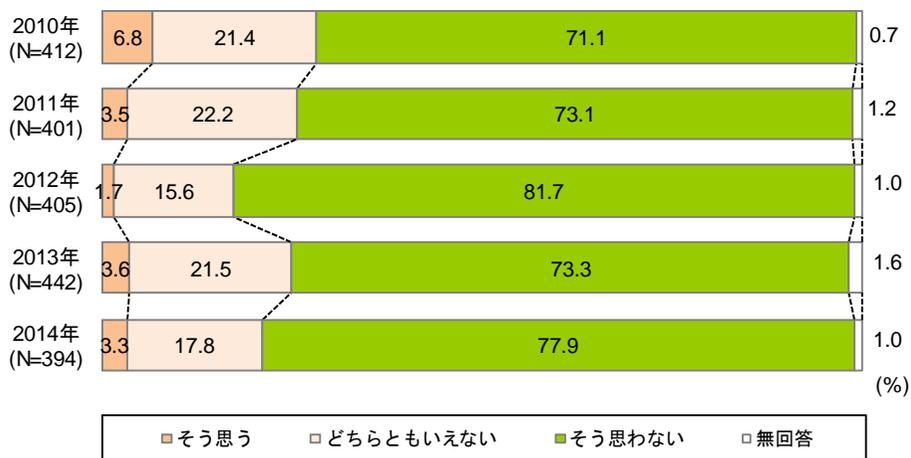
### 恥ずかしい・格好悪い



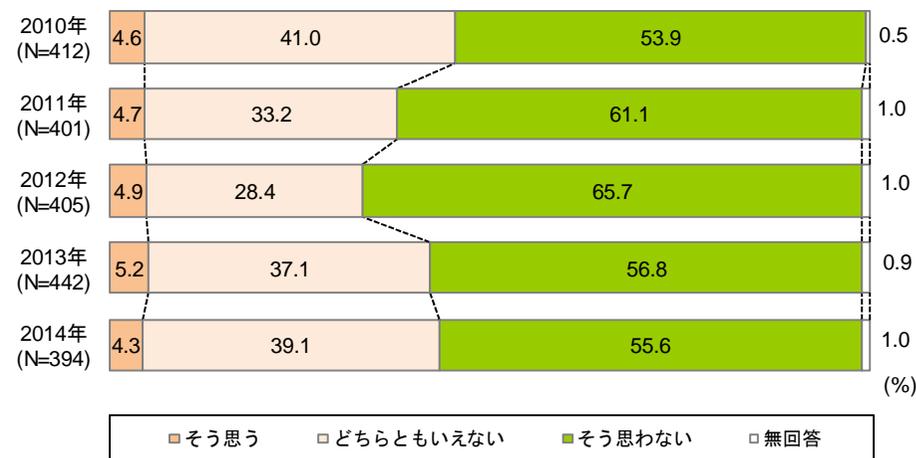
### 呼吸しにくい



### 不潔



### 花粉症予防に効果はない



## 調査方法

- NOS(日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイによる毎月調査)
- 調査員による個別訪問留置調査

## 調査対象

- 全国の15～79歳の男女個人

## 有効回収数

- 1200人(サンプル) ※エリア・都市規模と性年代構成は、日本の人口構成比に合致するよう割付実施

## 抽出方法

- 毎月200地点を抽出、住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当て

## 調査期間

- 2014/3/5 ~ 2014/3/17(過去調査は2003年、2010年、2011年、2012年、2013年いずれも3月に実施)

### NOS(日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ)について

調査パネルを使ってインターネットで簡単に情報収集できる時代になりましたが、NOSでは、40年以上にわたって、

①調査員を使った訪問留置、②パネルモニターではない毎回抽出方式で調査を継続しており、代表性のある信頼の高いデータを提供しております。

NOSは、毎月1回定期的に実施する乗り合い形式(オムニバス)の調査です。

毎回ランダムに決められた200地点にて、対象となる方に調査員が協力を依頼してアンケートを回収します。

性年代構成を日本の人口構成比に合わせているため、全体結果は日本を代表する意見としてそのままご覧になることができます。

インターネット調査では、回収が難しい60代以上の対象者やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法と言えます。

## 《 引用・転載時のお願い 》

本リリースの引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：日本リサーチセンター広報室 メール：information@nrc.co.jp

掲載では必ず当社クレジットを明記していただきますようお願い致します。

調査結果のグラフ・表をご利用の場合は、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。